

2015年9月2日

## 富士重工業 陸上自衛隊向け新多用途ヘリコプターの開発事業を受注

富士重工業は、本日9月2日、防衛省との間で陸上自衛隊向け新多用途ヘリコプター(UH-X)開発プロジェクト立ち上げ事業\*1の試作請負契約を締結致しました。

当社は、米国ベル・ヘリコプター・テキストロン社(本社:米国テキサス州、ジョン・ガリソン CEO、以下ベル社)と、高い信頼性と汎用性を持ち捜索救難等で活用される412シリーズの最新型ヘリコプターである412EPIの発展型機を「富士ベル 412+(仮称)」として共同開発し、この機体を共通プラットフォームとして陸上自衛隊向けUH-Xを開発する計画です。

民間機として開発する富士ベル 412+は、412EPIのドライラン能力\*2を向上させるとともに、トランスミッションの出力向上、機体の耐久性の改善など、性能と安全性を向上させた機体であり、自社で開発した金属表面加工技術や、民間機大量生産などで培った高効率生産技術など、当社の独自技術を最大限に投入する計画です。販売につきましては、ベル社のネットワークを活用し、協力して世界に向けて販売する計画です。

当社は、ベル社との55年にわたる強固なパートナーシップのもと、当社航空宇宙カンパニー(栃木県宇都宮市)にUH-Xと富士ベル 412+の製造ライン、及び維持整備体制を構築し、共同でヘリコプター事業を展開していく予定です。

\*1:事業名称「陸上自衛隊新多用途ヘリコプター(その1)」

\*2:メイン・トランスミッション内の潤滑油が抜けた状態で、30分間の飛行継続が可能な能力



(UH-X 完成イメージ)